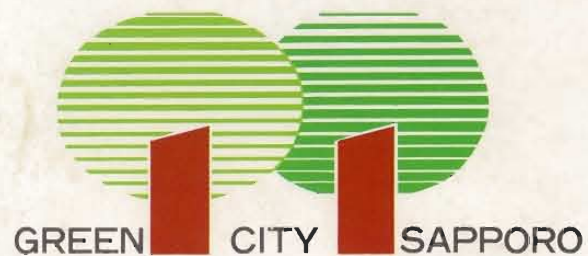


この刊行物は、皆様のご寄附による緑化基金の果実(利息)の一部によって作成いたしております。



緑化基金のお問い合わせは

(財)札幌市公園緑化協会

〒060 札幌市中央区南1条東1丁目
大通バスセンタービル1号館
TEL 211-2579

すくすくみどり

No.1

植物の育て方



(財)札幌市公園緑化協会

1. 草花（一年草）の育て方

春になると園芸店にパンジー、ペゴニア、マリーゴールド、サルビアなど花壇を彩る一年草が並びます。これらの花苗もちょっとした手入れのしかたで、より長く楽しめます。

土づくり

花づくりの基本は、まず土づくりです。よい苗でも土が悪ければ、よい花は咲きません。

よい土とは、水はけがよく、土が軟らかくて、手で握りしめると軽く固まって、ほぐすとすぐほぐれるくらいのものが最適です。



※石灰は植物を植える2週間くらい前にまいておきます。

地面



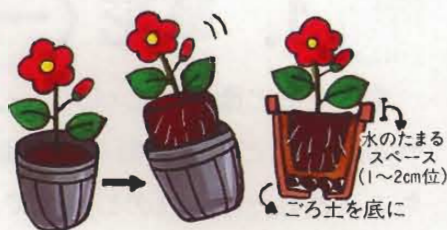
庭土に、堆肥、腐葉土、ピートモスなどを混ぜて深さ30cmくらいよく耕します。粘土質の強い場合は、火山れき、川砂など混ぜ、水はけをよくします。

鉢植え、プランターの土

市販の培養土を使用するときは、火山れきを1～2割混ぜると水はけがよくなります。自分で土を配合するときは、庭土や黒土10に対して、ピートモスか腐葉土3割、火山れき1割くらいをよく混ぜ合わせるとよいでしょう。

苗の定植

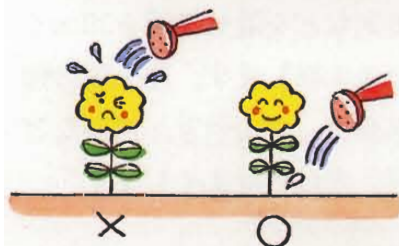
ポットから静かに苗を抜き取ります。白いきれいな根が出ていたら、そのまま土を崩さないように植え、根が茶色に変色して傷んでいたら回りを少しほぐしてから植え込みます。



水やり

原則として、土の表面が乾いたら水やりしましょう。

※何日に一回というのはあくまでも目安で、天候、土の状態で調節して下さい。



▲水は花に直接かけないように、根元の土にしみこむようにたっぷりやります。

鉢植えは、底穴から水が流れ出るくらいにたっぷりやって下さい。



※受け皿には絶対に水を溜めないようにして下さい。



サルビア

肥料

庭植えのものは花の咲いている間、粒状の化成肥料を1株当り小さじ1杯くらい株元にばらまいて下さい(やり過ぎは禁物です)。

鉢植えは10日に1度の割合で、1000倍くらいに薄めた水肥をあたえます。

※1000倍の水肥

水1ℓに対して、肥料原液1ccを溶かすと1000倍です。水やりの要領でたっぷりとやって下さい。



1000倍液の作り方

その他の手入れ

●花がらとり●

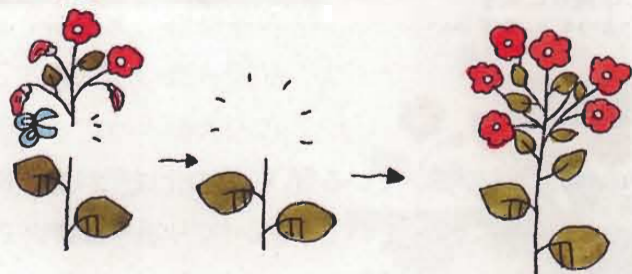
次々と花の咲くものは、咲き終わった花がらをこまめにつみとりましょう。取るのは花びらだけでなく、種の子房から取って下さい。



●切り戻し●

花がひととおり咲いて、茎が伸びてきたら、一度切り戻して肥料をやると、横枝が伸び、再び花をたくさんつけます（ペゴニア、サルビア、ペチュニアなど）。

なるべく早めに（7月中）切ると秋遅くまで楽しめます。



2. 宿根草・球根植物の育て方

●宿根草とは、屋外で越冬し、毎年咲く草花をいいます。

例：ルピナス、宿根カスミソウ、スズラン、キキョウ、コギク、ハナショウブなど

植え土は一年草に準じます。水やりは、日照りが続いたらやる程度でよいでしょう。肥料は、春の芽だしの頃に油かす、骨粉などを施します。



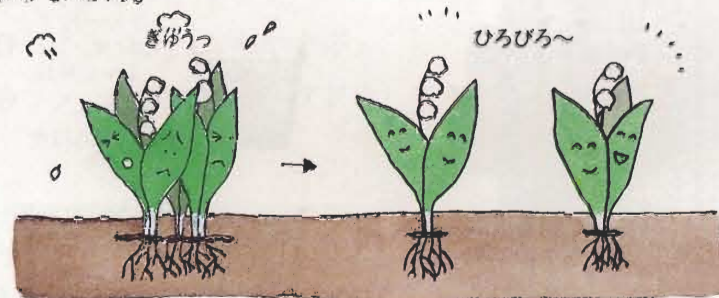
ルピナス



ジャーマンアイリス

3～5年くらいたって込み合ってきたら、一度ほりあげて植え広げてやります。植え付け、株分けは主に春の芽出し時に行います。一般には春咲きのものは秋、夏・秋咲きのものは春にします。（例外：ハナショウブ、アヤメは花後 シャクヤクは秋早めに）

※ルピナス、カスミソウ、ケシ類は移植を嫌いますので植え替えはしません。



●球根植物は種類によって植え付け時期、植え方が異なります。

・秋植え球根（10月）

例：チューリップ、スイセン、ヒヤシンス、ユリ

・春植え球根（5～6月）

例：アマリリス、グラジオラス、カンナ、ダリア



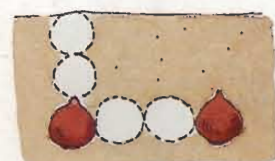
ハカタユリ



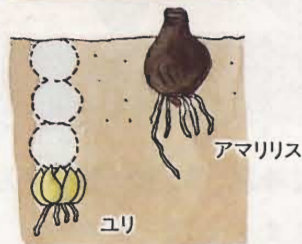
チューリップ花壇

植え土は一年草に準じます。深さ、間隔とも球根2球分くらい取ります。(例外：ユリは3～4球分くらい深く、アマリリスは頭部を出して植えます。)

鉢植えにする場合は、球根がかくれる程度に土をかけ、秋植えのものは凍らない程度の寒さに当て、冬越しします。(例外：ユリは鉢の中程くらいに深めに植えます。)



チューリップ
スイセン
4～5号鉢
球根が
かくれる程度



ユリ
5～6号鉢
鉢の中程に植える



アマリリス
5～6号鉢
頭部を出して植える



肥料は化成肥料を施し、葉が黄色くなったらほりあげて貯蔵し、時期がきたら植え付けます。スイセン等は3年に1度くらいほりあげる程度でよいでしょう。春植えのカンナ、ダリアは、植え付け時に元肥を施し、後、7月中旬に追肥するとよいでしょう。春植えのものは寒さに弱いので、花が終わったら必ずほりあげ、軽く乾かしてからおが屑や新聞紙にくるんで、室内で越冬させます。

3. 樹木の育て方

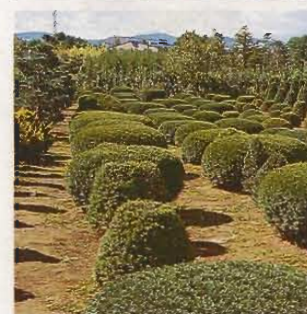
家庭によく植えられている樹木には次のようなものがあります。主にこれらの樹木の育て方についてご紹介します。

- ① オンコ、マツ
- ② モミジ、サクラ、ナナカマド
- ③ シャクナゲ、ツツジ
- ④ ライラック、ユキヤナギ
- ⑤ ウメ、サクランボ、ブドウ、モモ



カバレンゲツツジ

植え付け時期



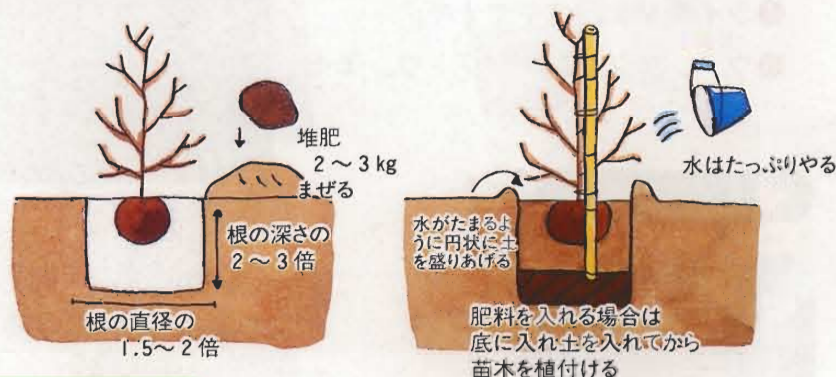
オンコ

- ① …… 6月が最適で、7～9月もできます。5月は危険なので避けます。
- ②・⑤ …… 雪解けから5月中旬の、葉が展開する直前が最もよいでしょう。
- ③・④ …… 花後(5～6月)の葉の開きだした頃にします。

〈例外〉ライラック、ナナカマドは、秋、葉が落ちてからにします。

植 え 方

根回りの直径の1.5～2倍くらいの穴を掘り、堆肥を2～3 kg、土と混ぜて深植えにならないように植えます。元肥は③④⑤の花もの、実ものに施します。油かす、骨粉を一握りくらい植え穴の底に、根に直接触れないように入れます。ぐらつくときは支柱を立てるとよいでしょう。



肥 料

- ①・②…ほとんど必要ありません。調子を見て施します。
- ③・④…花後と9月に施します。(化成肥料と有機肥料)
- ⑤………雪解け時に油かす、鶏ふん等を2～3 kg周囲にばらまき、土と軽く混ぜ合わせます。その後、実のついたところと9月にそれぞれ1 kgずつ施します。

剪 定

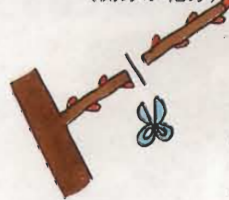
オンコ・欧州産のマツ



8月盆すぎから9月の間にのびた枝を切りつめます。

●…花芽 ●…葉芽

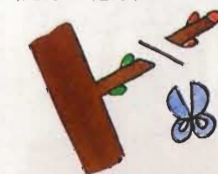
ウメ (側芽が花芽)



枝ぶりを見て、のびすぎた所を切りつめます。

ライラック・アジサイ

(先芽が花芽)



花後すぐに浅く切る程度で、特に切らなくてもよいでしょう。

ツツジ

(頂芽が花芽)



枝先に花芽ができるので花後すぐ切り、小枝をふやします。

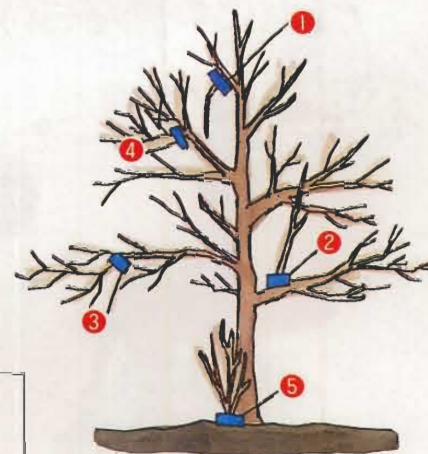
日本産のマツ

マツの新芽



剪定よりも指先で芽つみを行います。アカマツ、ゴヨウマツは6月、クロマツは7月にします。1/3位新芽をつみとります。多い場合はまびきします。

モミジなど一般樹木



- …極端な上向きや下向き
 - …枝ぶりの悪いもの
 - …こみあったもの
 - …ヒコバエ
- 等を剪定します。

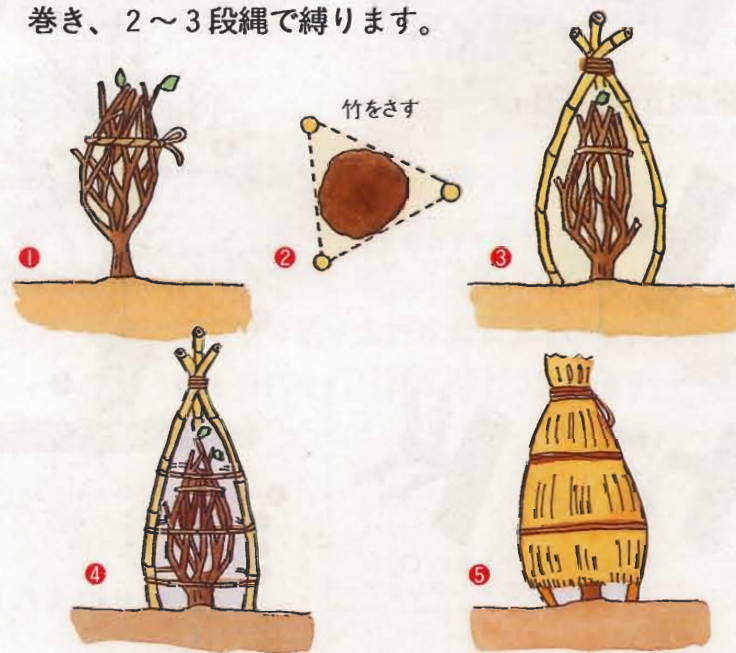
冬 囲 い

北海道では寒さで枝が枯れ込んだり、雪の重みで枝が折れたりしないように冬囲いをします。

●材 料：根曲がり竹、さらし竹、丸太、板、縄、むしろ、わら等

●方 法

- ①植物全体の中程より上を縄で束ねます。
- ②株の回りに根曲がり竹を3～5本、等間隔にさします。
- ③竹を植物の上10～20cmの所で右回りか左回りに揃えて縄で縛ります。
- ④竹囲いの外側を所々竹に一巻しながら下から縄で巻き上げます。
- ⑤雪害をうけやすい場所にあるものはこの上からむしろを巻き、2～3段縄で縛ります。



この方法は、から巻といい(むしろをかけるのはこも巻)もっとも簡単なもので、低木類にむいています。2 m以上の樹木には幹吊りがよいでしょう。幹吊りは、木の幹の上から3分の1くらいの所から縄をたらし、下方の枝の中程よりやや先によったところをあげ気味に吊ります。この他、列植したのものには屋根根式が適当でしょう。

こも巻にビニールを使うのは蒸れて枯れる原因になりますので出来るだけ避けましょう。



冬囲いは、囲ってしまえば終わりではなく、積もった雪を下ろしたり、春の氷割など、取り外すまで面倒を見てもらいたいものです。



4. 観葉植物の育て方

一年中室内で緑を保つ様々な観葉植物は、お部屋にうるおいと優しさを与えてくれます。しかし、水やりや、冬越しに失敗して枯らしてしまったなど、しばしば耳にします。室内で毎日目にするものですから、よく観察しながら上手に育てたいものです。

置き場所

一般に観葉植物は、室内で楽しむものが多く、同じ場所に長くおきます。購入したり、動かしたりしたときは葉を落としたり、葉やけをおこしたりしますが、徐々にその場所に慣れてきますので、特に環境が不適當でなければあまり場所を移動しない方が無難です。



ストーブの温風や熱が直接あたらないように



日を好むものは明るい窓際に、日陰や寒さに耐えるものは玄関や廊下など、種類によって使い分けましょう。種類によって越冬温度が異なりますので、15ページ表を参考にして、暖房器の温風等が直接当たらないところに置きましょう。

水やり

鉢土が乾いたらたっぷり^{かん}灌水します。受け皿には水を溜めないようにしましょう。

又、シダ類など、葉水を好むものもありますので、霧吹きなどで葉に水をかけるのも大切です。

冬、温度が下がってきたら水やりも徐々に減らしますが、暖房によって室内は乾燥気味なので、葉水などで湿度を上げて下さい。風呂場でぬるま湯のシャワーをかけるのも効果的です。



ツデイシダ



ホンコンカボック

日 光

日を好むもの、好まないもの、日陰に耐えるものと様々なので、15ページ表を参考にしてください。一般に、斑入りのものは、斑の部分が日焼けしてしまうので直射日光は避けます。日を好むものでも屋内にあったものを急に屋外に出すと葉焼けしてしまいますので、徐々に慣らすようにしましょう。

肥 料

生育期間のみ(6～9月)与えます。鉢土に置く粒状の化学肥料が便利です(2カ月に1度くらい)。状態を見て液肥も併用しましょう。



ポトス

植え替え・株分けなど

購入した観葉植物は、土があまりよくないことが多いので新しい土で植え替えするのをお勧めします。植え替え時期は6～8月にします。土は草花に準じます。



ベンジャミン

観葉植物一覧表

名 前	越冬温度℃	光 線	水 や り
カボック (シェフレラ)	0～5	○ 日陰も可	普通
ゴムノキ類	5～8	○ 斑入種は ●	普通
ポトス	5～	●	普通
ヤシ類	0～12	●	普通
パキラ	5～	○	乾かし気味
クロトン	12～15	○	普通
ディフェンバキア	8～	●	普通(葉水も)
シダ類	5～8	●	普通(葉水も)
ドラセナ類	5～8	●	普通
ブライダルベール	5～8	●	普通
アロエ	0～5	○	乾かし気味
ヘデラ類	0～	○	普通
ペゴニア類	5～8	●	湿(葉水も)
アジアンタム	8～10	●	湿(葉水も)
オリヅルラン	0～5	○	乾かし気味
コーヒートキ	8～12	○	普通

○：日当りを好む ●：直射日光を避ける

普通：夏1日1回、冬3～4日に1回(土の状態によって調節)

(財)札幌市公園緑化協会の役割

当法人は、「緑化基金」を造成し、これを有効に運用して札幌市の行う「緑のまちづくり」に協力することを目的に設立されました。

緑は、都市の良好な環境を作るうえで重要な役割を果たすものであると同時に、私たちの日常生活にうるおいやすらぎを与えてくれるものであります。

私たちは「緑でつつもう札幌のまち」を実現するため「緑化基金」の充実に鋭意努力をしていく所存であります。

この使命達成のため是非皆様方のご協力とご支援を心からお願い申し上げます。



募金目標額 300,000千円

昭和59年度～平成2年度（7年間）

皆様の温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。